

分野横断的に取り組む重点施策評価検証シート【2021年度実績】

項目	1 子どもに寄り添うまちづくり
目指す姿	子ども目線に寄り添い、一人ひとりの子どもの健やかな育ちを地域が一体となって望み、実現するまちを目指します。
取り組み方針	
すべての子どもが、心身ともに健やかに、地域や周囲とつながりを持って、自分らしく育つための取り組みを充実します。 ●子どもの権利が損なわれることのない地域環境の構築に努め、未来をたくましく生き抜くための基盤づくりとして、学力や体力、意欲の底上げを強化します。 ●子どもの自己肯定感や郷土心を育む活動を充実します。	

1. 評価指標

評価指標	策定時 (2019年度)	目標値	中間 (2021年度)	計画完了時	説明
①子どもが被害者となる事件の件数	—	0件	0件		町で把握
②全国学力学習状況調査で正答率が全国平均の5割に満たない児童生徒の割合	10.6%	減少↘	12.1%		全国学力学習状況調査質問用紙
③運動を好きな子どもの割合	84.5%	増加↗	86.9%		全国体力運動能力運動習慣等調査質問用紙
④自己肯定感の高い子どもの割合	86.0%	増加↗	82.4%		全国学力学習状況調査質問用紙
⑤鷹栖町を好きな子どもの割合	84.5%	増加↗	—		学校アンケート

2. 施策の成果と関連する主な実施計画事業の決算額(単位:千円)

事業名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	合計
地域や家庭とともにつくる学校運営の推進	3,923	4,411				8,334
児童生徒健全育成事業	891	210				1,101
コーディネーショントレーニングを生かした感性を育む教育活動	841	3,223				4,064
まちを理解し郷土愛を育むふろさと体験活動	29	72				101
青少年健全育成事業	413	170				583

3. 施策の達成状況と事務局評価

(1) 施策の達成度とその考察						
中間時の 成果評価	☐ 成果は向上した ☒ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した				想定される 理由	評価指標5つのうち、現時点で目標値を上回っているのは2項目、下回っているのは2項目、未計測が1項目。新型コロナウイルスによる環境の変化が、評価指標項目にもたらす影響も懸念される。
目標値 達成見込み	☒ 現状の取り組みの延長で達成できる。 ☐ 現状の取組の延長で達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能。 ☐ 目標達成は難しい				根拠	いずれの評価指標も計画完了時点の数値が上回ることを目指しており、長期的な展望に基づく、毎年度の取り組みの積み重ねを基盤としながら、コロナ禍など子どもたちを取り巻く社会変化への適切な対応をとりつつ、目的の実現に向けた事業を継続する。
(2) 事務局(庁内)評価と今後の方向性						
評価	評価指標について、目標の達成状況にバラつきはあるが、スクールソーシャルワーカーの設置による支援や小中学校を中心としたふるさと共育の推進など、新たな取り組みが成果の芽を育みつつある。長期的な展望に基づく取り組みの継続性と積み重ねを重視して、事業を継続する。一方で、子どもを取り巻く環境のコロナ禍による変化の影響は大きなものであり、子どもの適切な発育発達のための環境を守るため、必要な対応を適宜進める。					
評価	A	B	C	D	E	A: 実現した B: (策定時と比較して) 大きく前進した C: (策定時と比較して) 前進した D: (策定時と比較して) 変わらない E: (策定時と比較して) 後退した
			○			

4. 外部評価（総合振興計画策定委員会）

評価	取り組みは順調に進められていると評価できる。その効果がどうであったか、という検証については、今後もしっかりと振り返る必要がある。 学力向上については、個別指導等の努力がされているが、再度、幼小中での連携や意見交換を検討してはどうか。 ふるさと共育プログラムは、既存の取り組みをうまく仕組み化していて、地域の子どもと大人とがつながる場にもなる。表現力や自由な発想など、個性が生かされていく教育を望む。 スクールカウンセラーに加え、スクールソーシャルワーカーを設置しての相談体制の充実については今後も継続を望む。子どもの運動と学力、さらに自己肯定感は、それぞれ別々ではなく、関連し連動しているので、そうした視点で一体的に事業を進めていくことが大切になる。					
評価	A	B	C	D	E	A: 実現した B: (策定時と比較して) 大きく前進した C: (策定時と比較して) 前進した D: (策定時と比較して) 変わらない E: (策定時と比較して) 後退した
			○			

分野横断的に取り組む重点施策評価検証シート【2021年度実績】

項目	2 健康のまちづくり
目指す姿	社会情勢の変化に対応した健康づくりの取り組みを推進し、あらゆるステージで切れ目なく、健康を実感できるまちを目指します。
取り組み方針	
「身体的、精神的、社会的に満たされた健康状態」を実現するため、広く各分野の施策を連動して取り組みます。 ●「体の健康」「心の健康」「社会的役割や地域とのつながり」を、ライフステージごとにそれぞれ実現できる環境を切れ目なく構築するため、町の健康づくりに関する取り組みを分野横断的に整理して、町民に周知を進めます。 ●健康について学びを深め、取り組みのきっかけとなる講演や講座を、世代に応じて参加しやすい仕組みで開催します。 ●個人にとっても有益な情報である健康に関するデータの蓄積を、有効活用する仕組みづくりを進めます。 ●インセンティブを付与する制度の構築など、健康な行動に向かうための行動変容のアプローチの強化を図ります。	

1. 評価指標

評価指標	策定時 (2019年度)	目標値	中間 (2021年度)	計画完了時	説明
①ライフステージごとに整理した健康づくり支援の取り組みの公表	-	公表	未公表		町で公表
②健康データを活用する仕組みの構築	-	構築	構築		学校健診結果等の電子化へ取り組み着手
③健康に向けた行動変容を促す新たなアプローチの構築	-	構築	構築		官民連携型健康プロジェクトに着手
④普段から健康を意識して生活している人の割合	-	70%以上	-		後期計画策定時のアンケートで把握予定

2. 施策の成果と関連する主な実施計画事業の決算額(単位:千円)

事業名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	合計
各種健康診査事業	10,747	10,972				21,719
生活習慣病対策事業	563	399				962
運動習慣化事業	5,410	8,623				14,033
子どもの多様なスポーツ環境整備事業	0	302				302

3. 施策の達成状況と事務局評価

(1) 施策の達成度とその考察						
中間時の 成果評価	☐ 成果は向上した ☒ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した				想定される 理由 評価指標の②③に関しては、それぞれ新たな仕組みを構築する事業を進めてきたところであり、今後その活用局面によって、成果の発現が期待できる。	
目標値 達成見込み	☐ 現状の取組の延長で達成できる。 ☒ 現状の取組の延長で達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能。 ☐ 目標達成は難しい				根拠 インセンティブを活用し、町内事業所にも参加を呼び掛けた健康プロジェクトの実践など、新規の取り組みが一定程度進捗している。実証段階から広く普及展開されていく段階で、実証効果を検証しながら、効果的な改善を図っていくことで、事業成果を最大化していくことを見込む。	
(2) 事務局(庁内)評価と今後の方向性						
評価	評価指標の②③に関連して新たな制度を構築の進めており、一定の前進がある。今後はそれらの仕組みを広く展開、活用しながら、評価指標④の向上につなげる。健康は日常の積み重ねによる結果であることから、目指す姿の実現に向けて、あらゆる世代における切れ目ない支援体制を意識して事業を推進する。					
評価	A	B	C	D	E	A: 実現した B: (策定時と比較して) 大きく前進した C: (策定時と比較して) 前進した D: (策定時と比較して) 変わらない E: (策定時と比較して) 後退した
			○			

4. 外部評価（総合振興計画策定委員会）

評価	評価指標①は未達成であるが、事業の進捗状況から、ライフステージに対応した内容となってきた。制度や仕組み、システムの整備が進んでいるが、それらがどのように活用されていくかが肝心である。整備されたものを町民が有効活用しなければ意味がないので、今後、利用状況が分かるアウトプット指標や、利用によって町民が得られる成果のアウトカム指標の目標設定を望む。 総合型地域スポーツクラブが、将来的に主体性を高めて運営していく組織となり、既存団体や部活動が抱える課題を解消していくことにつながることを期待する。					
評価	A	B	C	D	E	A: 実現した B: (策定時と比較して) 大きく前進した C: (策定時と比較して) 前進した D: (策定時と比較して) 変わらない E: (策定時と比較して) 後退した
			○			

分野横断的に取り組む重点施策評価検証シート【2021年度実績】

項目	3 農業資源を生かしたまちづくり
目指す姿	本町の農業資源を、食・観光・交流・教育など様々な分野で生かしていくことで、農業のまちとしての魅力を高めていくことを目指します。
取り組み方針	
農業者と非農業者との交流と理解を促進し、互いに寄り添い支える関係づくりを推進します。 ●町民が、町産の農産物を購入しやすい環境づくりを進めます。 ●農業資源を生かして、グリーンツーリズムやワーキングホリデー、移住体験の受け入れなど、都市部住民との交流や関係づくりを進めます。 ●子どもたちの農業体験教育の充実や、福祉的課題に農業を生かす取り組みの検討を進めます。	

1. 評価指標

評価指標	策定時 (2019年度)	目標値	中間 (2021年度)	計画完了時	説明
①町民が町内農産物を購入しやすい仕組みの構築	-	構築	構築		直売マップ、マルシェ等で取り組み
②農業を生かした体験型観光実施箇所数	4カ所	増加↗	5カ所		町内実施箇所数を町で把握
③農業体験実施後に引き続きまちに関わる意思を持った人数	-	40人	20人		体験参加者がふるさとサポーター登録等の継続的な関わりに至る方を把握
④幼児から高校まで段階に応じた農育プログラムの構築	-	構築	未構築		町内の幼小中高との連携

2. 施策の成果と関連する主な実施計画事業の決算額(単位:千円)

事業名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	合計
農業体験交流推進事業	9,757	10,094				19,851
農業者と非農業者をつなぐプラットフォーム創造事業	0	0				0
多様性と付加価値を高める農業推進事業	0	0				0
農村資源を生かした体験型観光の推進	0	0				0
観光資源活用ネットワーク化推進事業	3,860	6,578				10,438

3. 施策の達成状況と事務局評価

(1) 施策の達成度とその考察					
中間時の 成果評価	☐ 成果は向上した ☒ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した				想定される理由 直売マップの制作や農業体験事業者の拡充、農育プログラムの推進、農福連携など、新たな取り組みが進んでいる。今後、さらに推進することにより、一層の成果の発現が期待できる。
目標値 達成見込み	☒ 現状の取組の延長で達成できる。 ☐ 現状の取組の延長で達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能。 ☐ 目標達成は難しい				根拠 農業の多様な分野における価値化を目指し、体験交流、観光、教育、福祉など、複数の分野で農業との掛け合わせによって新たな広がりが見えつつある。評価指標の到達度も順調に推移しており、取り組みを継続していくことで、前期計画期間内で一定の成果を期待できる。
(2) 事務局（庁内）評価と今後の方向性					
評価	新規の取り組みの着手状況や評価指標の進捗から評価すると、順調に取り組みが進んでいると言える。評価指標①は、マップの作成やたかすマルシェ等の開催が関連する事業となるが、現状維持ではなく、今後、さらに取り組みを充実することで、成果がより一層広がることが見込まれる。他の評価指標についても同様で、事業を適切に検証、改善して継続していく。				
評価	A	B	C	D	E
			○		
A: 実現した B: (策定時と比較して) 大きく前進した C: (策定時と比較して) 前進した D: (策定時と比較して) 変わらない E: (策定時と比較して) 後退した					

4. 外部評価（総合振興計画策定委員会）

評価	多様な取り組みを進めて成果が生じていることは評価できる。一方で、マルシェや農業体験の取り組みなど、利用する年代層の固定化や利用者が少ない等の課題の声も散見されるため、さらに多くの人に認知され、利用されるために、情報発信の仕方やニーズに沿った事業運営を進めてほしい。 中間時に目標に到達した項目も、引き続き事業のブラッシュアップに努められることを望む。評価指標②に関連し、実施箇所数に加えて、利用者数の把握に努めることが望ましい。また、農業体験の受け入れに際しては、農業者と利用者との間で調整を図る役割の人材や、農業者側が受け入れノウハウを高め、ストレスを感じない仕組みとすることが大切である。幼少期からの体験は、将来的な職業選択や様々な考え方に影響するので、評価指標④農育プログラムが良い形で進むことを期待する。				
評価	A	B	C	D	E
			○		
A: 実現した B: (策定時と比較して) 大きく前進した C: (策定時と比較して) 前進した D: (策定時と比較して) 変わらない E: (策定時と比較して) 後退した					

分野横断的に取り組む重点施策評価検証シート【2021年度実績】

項目	4 市街地エリアの魅力づくり
目指す姿	まちの中心部である鷹栖市街地の賑わいの創出と地域交流の活性化を図り、定住人口を呼び込むことで、子どもから子育て世代、高齢者まで、全世代が生きがいをもって安心して暮らせる町を持続的に実現することを目指します。
取り組み方針	
子どもに関する視点をキーワードとして、多世代の交流促進や様々な領域の施策を一体的に進めることで、あらゆる世代が安心して過ごせる住民満足度の高い市街地を形成します。 ●年少人口を呼び込むため、子育て世代のニーズに沿った住宅環境の充実を図ります。 ●中心商店街ににぎわいを生む、起業や空き店舗活用などの取り組みを支援します。 ●公民館事業やサロン活動、施設の利活用などを通して、多世代交流を促進するエリアづくりを進めます。 ●高齢になっても希望を持って住み続けられる市街地を形成します。	

1. 評価指標

評価指標	策定時 (2019年度)	目標値	中間 (2021年度)	計画完了時	説明
①鷹栖市街地の年少人口の割合	12.5%	11.0%	10.5%		年度末の数値を把握
②鷹栖市街地での起業実績	－	3件	0件		町で把握
③鷹栖町に住みたい人の割合	82.0%	策定時以上	－		後期計画策定時のアンケートで把握予定

2. 施策の成果と関連する主な実施計画事業の決算額(単位:千円)

事業名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	合計
鷹栖市街地エリアマネジメント推進事業	5,421	6,774				12,195
移住定住の促進	38,942	37,818				76,760
新規開業支援事業	0	4,237				4,237
起業に向けたトライアル支援事業	0	0				0
継業に向けた調査研究事業	0	0				0

3. 施策の達成状況と事務局評価

(1) 施策の達成度とその考察						
中間時の 成果評価	☐ 成果は向上した ☒ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した				想定される 理由	現在は、鷹栖市街地のエリアマネジメントに関する基本構想をまとめている段階であり、成果の発現は今後、具体的事業の実践にともなって発現が見込まれる。
目標値 達成見込み	☐ 現状の取り組みの延長で達成できる。 ☒ 現状の取組の延長で達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能。 ☐ 目標達成は難しい				根拠	評価指標①は、想定より早い段階で減少している。要因を分析すると、年少人口が減少している一方、生産年齢人口は維持されており、割合に影響している面もある。 今後、基本構想や計画をまとめ、それらに基づく具体的事業を、新規・見直しを図って実施することで目標値の達成を見込む。
(2) 事務局(庁内)評価と今後の方向性						
評価	コロナ禍による社会情勢の変化等により、進捗に若干の遅れはあるが、関係機関との協議などを進め、計画策定時と比較すると、将来像の実現に向けて前進している。今後、基本構想や計画をまとめ、それに基づく新規の取組や現行事業の見直しも想定し、具体的な実践に向けて事業を継続する。					
評価	A	B	C	D	E	A: 実現した B: (策定時と比較して) 大きく前進した C: (策定時と比較して) 前進した D: (策定時と比較して) 変わらない E: (策定時と比較して) 後退した
			○			

4. 外部評価（総合振興計画策定委員会）

評価	空き家や移住促進、地域おこし協力隊と連携した活動の取り組みが進んでいることは評価できる。近郊から鷹栖町へ移って起業をする事例も出てきている。 一方で、店を閉じるケースもあるので、この部分への対策も必要。起業への支援だけではなく、事業継続や事業承継への支援のあり方についてしっかりと対策を講じて、関連する評価指標について注視していくことを望む。 地域の活性化や魅力は、単に「数」ではなく、機能や人を呼び込む要素であり、多面的に情報を集めて分析し、今後のヒントとされたい。また、空き地や空き店舗の活用、エリアマネジメントの体制づくりや関係人口が大きなポイントであり、様々な人材を巻き込み、事業を推進していくことを望む。					
評価	A	B	C	D	E	A: 実現した B: (策定時と比較して) 大きく前進した C: (策定時と比較して) 前進した D: (策定時と比較して) 変わらない E: (策定時と比較して) 後退した
			○			

分野横断的に取り組む重点施策評価検証シート【2021年度実績】

項目	5 地域運営の基盤づくり
目指す姿	人口減少社会に対応して、地域課題を住民の力で解決していく基盤を構築していくことを目指します。
取り組み方針	
公民館ごとの地区割りをベースとして、それぞれの地域に合った課題解決の仕組みづくりを進めます。 ●実態調査や事例研究に取り組みながら、各地区と地域課題の解決に向けた進め方を協議します。 ●地域防災をテーマとした課題に対して、住民力によって解決を図る運営体制の検討を進めます。 ●次世代の地域づくりを担う人材の確保、育成に取り組めます。 ●地域づくりに関する知識や参画意欲を高めるための、学びの機会を継続して提供します。 ●まちづくりの様々な場面で、住民が参画しやすい環境づくりを進めます。	

1. 評価指標

評価指標	策定時 (2019年度)	目標値	中間 (2021年度)	計画完了時	説明
①新たな地域運営体制の構築	－	構築	－		R2～着手の地域運営モデル地区で検討
②自主防災組織の設立	－	設立	－		地域運営モデル地区で検討着手
③町民主体や協働で取り組む地域課題解決の新たな事業	－	20事業	13事業		町振興補助金、まちLabo等で把握
④まちづくりに関するワークショップ、セミナーの開催	－	毎年開催	毎年開催		まちづくりセミナー等の開催状況を把握
⑤行政計画策定時の住民参加機会の確保	－	確保	確保		町で確保

2. 施策の成果と関連する主な実施計画事業の決算額(単位:千円)

事業名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	合計
持続可能な地域づくり推進事業	9,327	13,084				22,411
地域防災力の強化	300,356	2,046				302,402
住民参加のまちづくりの推進	871	758				1,629

3. 施策の達成状況と事務局評価

(1) 施策の達成度とその考察						
中間時の 成果評価	☐ 成果は向上した ☒ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した				想定される 理由	「地域運営モデル地区」や「まちLabo」といった新規の取組を中心に推進しているところであり、主だった成果の発現はこれからを見込む。
目標値 達成見込み	☒ 現状の取組の延長で達成できる。 ☐ 現状の取組の延長で達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能。 ☐ 目標達成は難しい				根拠	評価指標の①②については、長期的な展望に基づき段階的に事業を進めており、前期計画期間内で一定の成果を期待できる。 ③は、まちLaboの取組などによって新たな動きや事業などの成果が見えてきており、前期計画期間内で目標値の達成が見込まれる。
(2) 事務局（庁内）評価と今後の方向性						
評価	予定している事業を計画的に実施しており、進捗状況としては、前期計画期間に評価指標の達成を見込んで進めてきているところ。「地域運営モデル地区」や「まちLabo」など、現状で積み上げてきた取組を基盤として、地域とのパートナーシップに基づく協議を継続し、協働による目指す姿の達成に向けて事業を継続する。					
評価	A	B	C	D	E	A: 実現した B: (策定時と比較して) 大きく前進した C: (策定時と比較して) 前進した D: (策定時と比較して) 変わらない E: (策定時と比較して) 後退した
			○			

4. 外部評価（総合振興計画策定委員会）

評価	評価指標や事業の進捗からは、事業が順調に進んでいると判断する。人口減少によって生じる課題に対して、「地域運営モデル地区」や「まちLabo」を新たに取り組み、地域おこし協力隊との連携による活動を進めていることは評価できる。総合振興計画のコンセプトに基づいて、住民主体によって地区の将来像を描き、事業を進めていくということは、目指している「持続可能な地域の形成」へとつながるものである。 一方で、何かを変えようという時は、地域にストレスが生じたり、一部の住民が前に進めようとしても地域内で軋轢が生じたりという懸念もある。評価を行う際にも、広く住民から意見を聴取して反映することを望む。また、住民との話し合い、協力を得ることを、今後もしっかりと継続し、住民主体への理解が一部にとどまらずに、波及するように、住民へ寄り添って取り組まれない。 今後、もし住民による主体的な活動が進まない場合は、施設の廃止等を含めた検討が必要となってくるのではないかと。					
評価	A	B	C	D	E	A: 実現した B: (策定時と比較して) 大きく前進した C: (策定時と比較して) 前進した D: (策定時と比較して) 変わらない E: (策定時と比較して) 後退した
			○			